

【校訓】「一、何事も正直にせよ 一、誰にも親切なれ 一、常に勇気あれ」 明治36（1903）年6月21日制定

正親の伝統に誇りをもち、

目標に向かって主体的に学び続ける子の育成

【目指す子ども像】

- ☆ 自分から働きかけ行動する子
- ☆ 人の言葉に耳をかたむける子
- ☆ 挑戦することを楽しむ子

【育成を目指す資質・能力】

- ☆ 自己決定力
- ☆ 自己調整力
- ☆ 情報活用能力

【目指す学校像】

- ☆ ウェルビーイングな学校

【目指す教職員像】

- ☆ 最上位目標に向かって
一人一人を徹底的に大切にする教職員
- ☆ 豊かな愛情と高い専門性で
誠実に向き合う教職員

子どもも
大人も

《キーワード》

笑顔で満開

正親勇2.0 誰一人取り残さない、子どもを主語にした学校づくり

1st Step

守

基本(型)を身に付ける

2nd Step

破

良いものを取り入れ型を発展

3rd Step

離

新たな創造(教育DX)

【確かな学力】 主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善 ～個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させた学習を通して～

- ・ 主体性の向上 → 「好き」を育み、「得意」を伸ばす探究学習・個別最適な学び
- ・ 自律した学び手・自学自習の習慣化 → 自己決定力・自己調整力
- ・ 情報活用能力の育成 → 総合的な学習の時間における「情報の領域」の開発・検証

【いのち】 子どもの命を守り切る(心も体も充実した学校生活)

- ・ 生活習慣の確立 ・ 体力の向上 ・ 安全・安心な教育環境

ウェルビーイング
(楽しい学校)

エージェンシー
(主体性の発揮)

心理的安全性
(失敗できる環境)

【よりそい】 誰一人取り残されない教育(発達支持的生徒指導の実践)

- ・ 自己存在感の感受(たてわり活動の充実) ・ 共感的な人間関係の育成(主体性を育む学級経営)
- ・ 自己決定の場の提供(主体的・対話的で深い学び) ・ 安全・安心な風土の醸成(不登校「ゼロ」)

【つとめ】 職責の自覚と研鑽(「働きやすさ」と「働きがい」を求める学校)

- ・ 働きがいのある学校(校務DX、チーム担任) ・ スキルアップする教職員(校内研修・研究会活動)

【ひろがり・つながり】 校種間連携・接続(社会に開かれた教育課程、スクールコミュニティ)

- ・ 地域と連携した学習(まち、くらし、自然、安全、伝統、歴史) ・ 子どもの居場所づくり ・ 幼保小中連携

【ミッション】 「正親小のいいところ100」と「正親小をよりよくなる100のタスク」の実践

家庭・地域の連携・協力

「学校のウェルビーイング」を実現するために

幼・保・小・中の連携

誰一人取り残さない子どもを主語にした学校づくり

① 納得して「さようなら」、安心して「おはよう」といえる学校

- 学習が楽しい・よくわかる（自己決定の場の提供）
- 助け合える友だちがいる（共感的な人間関係）
- 自分の居場所がある（安心・安全な風土の醸成）
- 先生や友だちは自分のことをよく分かってくれる（自己存在感の感受）

② 児童がすべての教職員に見守られる体制

- チーム担任制による多面的・多角的な児童理解と指導・支援
- 学校運営協議会による学校と地域の協働活動（令和の番組小学校）

③ 生涯にわたって能動的に学び続ける力を育成する授業

- Input→Outputまでを見通して探究する子ども（問題発見・解決能力）
- 自己決定し、自己調整する子ども
- 自ら「問い」を立てる子ども

④ デジタル学習基盤を最大限に活用する教育環境

ウェルビーイング
（楽しい学校）

エージェンシー
（主体性の発揮）

心理的安全性
（失敗できる環境）

重点課題

情報活用能力を発揮して

自己決定し、自己調整する力を育む

（教師） ← 自己調整の度合い・学びの主体者 → （子ども）

学習課題 **問い**を立てる主体

学習過程 問題解決の**順序**や**時間配分**を計画する主体

学習形態 **どこで、だれ**と学ぶかを選択する主体

★探究の学習過程（A.課題の設定→B.情報の収集→C.整理・分析→D.まとめ→E.説明・発表・・・）
を豊かにするために、**ICT、見方・考え方、学習形態**等の工夫を加える

<キーワード>

• 「好き」を育み、「得意」を伸ばす

→主体性の向上

• 自律した学び手・自学自習の習慣化

→自己決定力・自己調整力